

教 育 資 料

平成11年度第4号

**「総合的な学習の時間」を創るための  
基盤づくりの研究  
(第1集)**

平成12年3月

京都府総合教育センター

# 刊行に当たって

21世紀を目前にした今日、社会は国際化、高度情報化、少子高齢化などが進んで大きく変化し、教育もまた大きな転換期を迎え、さまざまな教育改革が進められています。

平成8年7月に第15期中央教育審議会が、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」と題した第一次答申を行い、これからの学校教育の目指す方向として、「『ゆとり』のある環境で、一人一人の子どもを大切にした教育活動を展開し、『生きる力』を育成する」ことを明示しました。

具体的な方策としてあげられた中に、「教育内容の厳選」「個性を生かす教育」「教科の再編」と並んで「総合的な学習の時間」があります。また、平成9年11月の教育課程審議会の「中間まとめ」で、週当たりの授業時間の削減、中学校からの一層の選択履修幅の拡大とともに、「総合的な学習の時間」の創設が適当とされ、平成10年6月の最終答申を経て、新学習指導要領に「総合的な学習の時間」の設置が明示されました。平成14年度からの小学校、中学校での実施を控え、来年度からは移行措置が始まりますので、現在多くの学校でその取組のための準備がなされています。当センタ-におきましても、新教育課程を見据えた事業の充実、改善に努め、今年度はすべての教科及び領域等にわたって研修講座を開講し、新学習指導要領の趣旨の啓発を行いました。

一方、研究事業におきましても、「総合的な学習の時間」を研究の大きな柱の一つとしてとらえ、研究に取り組んでまいりました。そのまとめとして作成いたしましたのがこの「『総合的な学習の時間』を創るための基盤づくりの研究」(第1集)であります。

本研究は平成11年度と平成12年度の2年間にわたって行いますが、本年度は最初でもありますので、基本的な事柄を「Q & A」形式で示すとともに、小学校、中学校に研究協力員を委嘱して協力を求め、具体的な実践例をあげております。

平成12年度の2年次には、「総合的な学習の時間」について、更に理論や指導計画の研究を深め、高等学校を含めた事例を収集し、実践上の課題とその解決の方向を明確にしたいと考えております。

この冊子が各学校における「総合的な学習の時間」の円滑な導入と実践のための参考資料として積極的に活用されますことを願っております。

最後になりましたが、本研究の推進に御協力いただきました小学校、中学校の研究協力員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成12年3月

京都府総合教育センター  
所長 村田 伯義

# 目 次

## 刊行に当たって

### 第 1 章 はじめに ..... 1

- 1 研究主題
- 2 研究主題設定に当たって
- 3 研究のねらい
- 4 研究の方法
- 5 年次計画

### 第 2 章 「総合的な学習の時間」の基盤づくり Q & A ..... 3

#### 第 1 節 各学校共通 Q & A

- |                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| Q 1 . 創設の趣旨とねらいは？                 | 3  |
| Q 2 . この時間を通して育てたい力は？             | 5  |
| Q 3 . 各教科との関連は？                   | 6  |
| Q 4 . 道徳との関連は？                    | 8  |
| Q 5 . 特別活動との関連は？                  | 9  |
| Q 6 . 校内研修や組織づくりの進め方は？            | 10 |
| Q 7 . 学習環境づくりの進め方は？               | 11 |
| Q 8 . 構想するに当たっての手がかりは？            | 13 |
| Q 9 . 構築するに当たって考えられるスタイルは？        | 15 |
| Q 10 . 学習課題を設定するに当たっては？           | 17 |
| Q 11 . 具体的な学習内容は？                 | 18 |
| Q 12 . 年間指導計画・授業日数の組立方と留意点は？      | 19 |
| Q 13 . 体験的な学習を進めるに当たっては？          | 21 |
| Q 14 . 問題解決的な学習の進め方は？             | 23 |
| Q 15 . 評価するに当たっては？                | 24 |
| Q 16 . 具体的な評価方法としての「ポートフォリオ評価」とは？ | 25 |

#### 第 2 節 各学校別 Q & A

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| Q 1 . 小学校における外国語学習は？           | 26 |
| Q 2 . 小学校における生活科との関連は？         | 27 |
| Q 3 . 中学校における選択教科との関連は？        | 29 |
| Q 4 . 中学校における授業時数の設定は？         | 31 |
| Q 5 . 高等学校における「総合的な学習の時間」は？    | 33 |
| Q 6 . 高等学校における学習タイプと時間配当及び運営は？ | 34 |

第3章 「総合的な学習の時間」の展開の工夫 .....37

第1節 実践を支えるプログラムづくりのポイント 37

- 1 機能する学校体制の確立
- 2 「子どもありき」の教育課程の編成
- 3 「子どもありき」の学習環境の開発

第2節 学習展開に工夫をこらした小学校における実践例 43

- 1 単元名「環境調査隊が行く」
- 2 学習活動の見通し
- 3 単元で育てたい力と学年が求める子どもの育ちの見通し(第5学年)
- 4 単元の構想
- 5 単元設定の理由
- 6 本時のねらい
- 7 本時の展開
- 8 本時の評価
- 9 学習活動の工夫
- 10 評価の工夫
- 11 まとめ

第3節 効果的な学習展開をねらった中学校における実践例 59

- 1 単元の設定について
  - (1) 単元名「世界の子どもたちへ」
  - (2) 単元の構想
  - (3) 単元設定の理由
  - (4) 単元展開の構想
- 2 単元の構想と展開
- 3 課題設定時間における展開例
- 4 学習展開の工夫
- 5 評価の工夫
- 6 まとめ

主な参考文献

おわりに